

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 31 年 4 月 26 日現在

機関番号：20101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K00727

研究課題名(和文) 認可外保育所に勤務する保育士の離職原因の解明

研究課題名(英文) Factors related to depression among childcare workers

研究代表者

大浦 麻絵 (Asae, Oura)

札幌医科大学・医学部・助教

研究者番号：40404595

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,000,000円

研究成果の概要(和文)：保育所は就労中の家庭だけでなく、療養中の家庭も利用する。それゆえ医療的観点からも大切な社会基盤の一つである。保育士の離職は喫緊に取り組むべき大きな社会問題となっているが、これまで保育士に焦点を当てた我が国の先行研究は少ない。本研究では保育士の処遇改善は公衆衛生課題と捉えて2年間の追跡調査研究を行い、保育士の抑うつ状態に対して抑制・リスクとなる関連要因を示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

就労者のみならず病気療養中の家庭を支える役割を担っている保育所は重要な社会資源の一つである。これまで我が国において保育士に焦点をあてた先行研究は少なかった。保育士の労働環境のみならず、営む家庭状況も考慮した分析を行った。本研究の成果は統計資料としても重要である。また、制度変革期に行えた研究であることより、保育士の現状を捉えることが出来たことにも意義があった。

研究成果の概要(英文)：Users of nurseries are not only parents who work, but also parents with an illness or undergoing medical treatment. The present study reported factors related to depression among childcare workers.

研究分野：公衆衛生学

キーワード：保育士 ワークライフバランス 抑うつ 離職

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

子ども・子育て三法が施行され、我が国の幼児教育・保育環境が激変した。アメリカでは離職率 30%ともいわれる保育士の離職問題は大きな社会問題として捉えられ、保育士の離職については活発に研究が行われている[1, 2, 3]。しかし我が国においては保育士の離職問題は大きな社会問題となっているが、内閣府による子ども・子育て会議など国が主体となり実施している事業や調査が多いものの、先行研究は少ない[4]。保育園は就労中の家庭が利用するだけでなく、療養中の家族も利用する重要な社会基盤の一つである。先行研究では[5]、幼稚園教諭、保育士のワーク・ライフ・バランスの論調が低調であることの理由の一つとして、保育士の高い離職率、労働に対する処遇の低下、雇用の不安定さが一因ではないかと示唆されていた。

平成 23 年度、厚生労働省の委託事業として潜在保育士についての実態調査が行われた[6]。保育士として保育所で就労するにあたっての不安要素として、家庭との両立、自身の健康、体力、勤務時間などが挙げられていた。離職した理由については家庭との両立が難しい、近い将来結婚、出産を控えているなどライフイベントが挙げられており、ワーク・ライフ・バランスを考慮した就労環境改善の必要性が示唆されていた。

我々は保育士の就労状況の改善を喫緊に取り組みべき公衆衛生課題と捉え、追跡調査研究を実施した。

### 2. 研究の目的

本研究は、保育士の抑うつを抑制する関連・影響因子を明らかにすることを目的とした。

### 3. 研究の方法

札幌市内に設置された保育施設に勤務する保育従事者を対象とした追跡調査を実施した。ベースライン調査は 2015 年 11 月～2016 年 8 月に実施、以後 2 年間追跡した。本報告書においては追跡調査のデータクリーニング作業が完了していないため、ベースライン調査の結果を主に記す。調査開始前に施設長に研究協力依頼を行い、承諾を得られた施設に就労する職員に対して研究協力依頼を行った。各職員は研究依頼書を読み、研究参加同意する者のみ調査票と同意書を大学宛に返信した。保育士 358 人(17.9%)が研究参加者となった。自記式調査票は主に下記の項目で構成されていた；1)これまでの仕事の状況、2)現在の仕事の処遇、3)ライフスタイル、4)家族との状況、5)健康状況。抑うつ状態の判定には Center for Epidemiologic Studies Depression Scale (CES-D) を用いた。

統計解析には t-検定、カイ二乗検定、Fisher の直接確率検定法、多重ロジスティック解析を用いた。有意水準は 0.05 と定義した。本研究は札幌医科大学倫理委員会の承認を受けて行われた。

### 4. 研究成果

表 1 に対象者の基本属性を示す。女性が 348 人(97.2%)、平均年齢(±標準偏差)が 36.9 歳(±11.4)、抑うつ状態の保育従事者は 119 人(33.2%)であった。抑うつ者は非抑うつ者に比べ、若年であり、保育歴が短く、現在の施設での就労年数も短く、管理職者が少なく、残業がある者が多く、持ち帰りの仕事がある者が多く、上司が相談に乗ってくれる者が少なかった。

表 1 対象者の基本属性

	抑うつ 状態群 N=119	非抑うつ 状態群 N=239	p-value
性別(女性)	114(95.8%)	234(97.9%)	0.31
年齢	33.7 ± 10.6	38.5 ± 11.5	<0.001
保育歴	9.1 ± 7.7	12.9 ± 8.8	<0.001
就労年数(現施設)	5.1 ± 6.2	7.6 ± 7.4	<0.01
管理職	12(10.2%)	52(21.8%)	0.01
残業(あり)	94(79.0%)	156(65.5%)	<0.01
持ち帰り(あり)	69(58.5%)	111(46.6%)	0.04
上司に相談(できる)	84(71.2%)	209(90.5%)	<0.001
同僚に相談(できる)	108(93.9%)	232(97.5%)	0.13

表2に抑うつに対するOdds比を示す。補正後、保育歴が5年以上あること、上司が相談に乗ってくれること、有給が取れること、配偶者がいることが抑うつに対するリスクを下げていた。

表2 抑うつに対するオッズ比

	Model *
	(95%CI)
保育歴(5年以上)	0.55(0.34, 0.91)
管理職	0.51(0.25, 1.05)
残業	1.43(0.80, 2.54)
持ち帰りの仕事	1.25(0.75, 2.06)
収入(15万以上/月)	0.63(0.38, 1.06)
上司が相談に乗る	0.36(0.18, 0.73)
職場環境(良好)	0.68(0.37, 1.24)
有給	0.49(0.27, 0.88)
配偶者	0.55(0.32, 0.94)
子ども	0.56(0.31, 1.01)

\*: 5年以上の保育歴、保育施設の種別、職場の環境、睡眠状態、来院歴で補正

研究の限界と今後の課題；

調査において調査票の配布は予定通り遂行できたが、調査票回収期間が長くなった。初年度については1年近くの時間を要した。この事は送られてきた封書を直ぐに確認することが出来ないといった保育士の置かれている過酷な労働環境を反映しているのかもしれない。今後の調査遂行における課題となった。

また追跡調査では住所変更による脱落が多かった。勤務する保育施設での転勤・離職などに伴い、居住場所も変更する可能性が考えられた。

#### 参考文献

1. Barnett WS, et.al. Economic of Education Review 2007;26:113-125.
2. Cassidy DJ, et al. Journal of Research in Childhood Education 2011;25:1-23.
3. ポーター倫子. 米国における保育の質研究：保育者の離職について.  
<http://www.blog.crn.or.jp/lab/01/38.html>
4. 廣川大地. 中村学園大学・中村学園短期大学部研究紀要 2008;40:83-90.
5. 中根真. 龍谷大学論集 2012;480:46-66
6. 潜在保育士についての実態調査.  
[http://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/pdf/h120423\\_g.pdf](http://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/pdf/h120423_g.pdf)

#### 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計1件)

Oura A, Suzumura M, Yamamoto M, Yako-Suketomo H, Katayama K, Tokizawa A, Sato T, Mori M. Factors related to depression among childcare worker; Cross-sectional study in Hokkaido, Japan. Sapporo Med J 2017;86:25-32..

〔学会発表〕(計7件)

#### 国内学会・シンポジウム；

大浦麻絵. 保育従事者のワーク・ライフ・バランス. 自主シンポジウム 『保育者養成における職務環境問題の改善と今後の課題』. 第71回 日本保育学会、仙台、2018.5.13.

#### 国内学会；

鈴村美和, 大浦麻絵, 助友裕子, 片山佳代子, 鈴村滋生, 佐藤知世, 菅原 誠, 森 満. 北海道における保育士と介護職員の処遇と状況. 第76回日本公衆衛生学会総会, 鹿児島, 2017.10.31-11.2 (P-2305-1)

大浦麻絵, 佐藤知世. 北海道における保育者のワーク・ライフ・バランスの状況; Hokkaido

**国際学会；**

Oura A, Suzumura M, Yamamoto M, Yako-Suketomo H, Katayama K, Tokizawa A, Sato T, Mori M. Factors related to depression among childcare workers: Hokkaido childcare workers' study, 1st report. The 27th Japan・Korea・China Conference on Occupational Health. Sapporo, Japan, 2017, March 31-June 1.(FCP-1-01)

Suzumura M, Oura A, Tokizawa A, Yamamoto M, Yako-Suketomo H, Katayama K, Sato T, Sugawara M, Mori M. Treatment and labor situations of childcare workers in the Hidaka district, Hokkaido, Japan: 2nd report. The 27th Japan・Korea・China Conference on Occupational Health. Sapporo, Japan, 2017, March 31-June 1.(FCP-1-02)

Tokizawa A, Oura A, Suzumura M, Yamamoto M, Yako-Suketomo H, Katayama K, Sato T, Mori M. Difference in childcare workers' treatment and labor situation between Sapporo City and the Hidaka district, Hokkaido, Japan: Hokkaido childcare workers' study, 3rd Report. The 27th Japan・Korea・China Conference on Occupational Health. Sapporo, Japan, 2017, March 31-June 1.(FCP-1-03)

Sato T, Oura A, Suzumura M, Tokizawa A, Yamamoto M, Yako-Suketomo H, Katayama K, Mori M. Was the labor situation of the childcare workers improved after 1 year? : Hokkaido childcare workers' study, 4th report. The 27th Japan・Korea・China Conference on Occupational Health. Sapporo, Japan, 2017, March 31-June 1.(FCP-1-04)

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕  
出願状況 (計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年：  
国内外の別：

取得状況 (計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

## 6 . 研究組織

### (1)研究分担者

研究分担者氏名：森 満

ローマ字氏名：Mitsuru Mori

所属研究機関名：札幌医科大学

部局名：医学部

職名：名誉教授

研究者番号 (8 桁): 50175634

研究分担者氏名：鈴木 美和  
ローマ字氏名：Miwa Suzumura  
所属研究機関名：札幌医科大学  
部局名：医学部  
職名：研究員  
研究者番号（8桁）：90758674

研究分担者氏名：助友 裕子  
ローマ字氏名：Hiroko Suketomo-Yako  
所属研究機関名：日本女子体育大学  
部局名：体育学部  
職名：教授  
研究者番号（8桁）：50175634

研究分担者氏名：片山 佳代子  
ローマ字氏名：Kayoko Katayama  
所属研究機関名：地方独立行政法人神奈川県立病院機構神奈川県立がんセンター（臨床研究所）  
部局名：がん予防・情報学部  
職名：主任研究員  
研究者番号（8桁）：70584374

研究分担者氏名：時沢 亜佐子  
ローマ字氏名：Asako Tokizawa  
所属研究機関名：札幌医科大学  
部局名：医学部  
職名：研究員  
研究者番号（8桁）：40722294

(2)研究協力者  
なし

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。